

科目名	管弦楽曲史	授業期間	通 年
担当教員	藤田茂	科目 No.	CMC2244
受講対象	全専攻 2～4年	単位数	4単位

目 標 ／ 概 要	管弦楽曲が、豊かで複雑な発展を遂げていったことを、具体的な作品とともに理解する。
	管弦楽曲史の発展を考えるうえで「道しるべ」となってくれる作品を取り上げる。これらを、美学的な視点、歴史的な視点、分析的な視点など、さまざまな視点から説明していく。

授 業 計 画	春 学 期					
	1	「管弦楽」の起源：ギリシアの記憶				
	2	バロック時代の管弦楽：宮廷の華				
	3	初期古典派の管弦楽曲：百花繚乱の響き				
	4	古典派の管弦楽曲（1）：ハイドンと均整の美学				
	5	古典派の管弦楽曲（2）：モーツァルトと遊び				
	6	古典派の管弦楽曲（3）：再びモーツァルト				
	7	古典派の管弦楽曲（4）：ベートーヴェンの意志				
	8	古典派の管弦楽曲（5）：再びベートーヴェン				
	9	ロマン派管弦楽への道程（1）：親密なるシューベルト				
	10	ロマン派管弦楽への道程（2）：メンデルスゾーンの水彩画				
	11	ロマン派の管弦楽（1）：ベルリオーズの誇大妄想				
	12	ロマン派の管弦楽（2）：文学青年リスト				
	13	ロマン派の管弦楽と国民楽派（1）：東欧：スメタナとドヴォルジャーク				
	14	ロマン派の管弦楽と国民楽派（2）：北欧：グリーグとシベリウス				
	15	春学期の総括				
	秋 学 期					
	1	ロマン派の管弦楽曲と国民楽派（3）：ロシア五人組とチャイコフスキー				
	2	ロマン派の管弦楽曲と国民楽派（4）：国民音楽協会のフランス：サンサーンス、フランク				
	3	ロマン派の歴史意識：ブラームスとブルックナー				
	4	世紀転換期の管弦楽曲（1）：シュトラウスとマーラー				
	5	世紀転換期の管弦楽曲（2）：ドビュッシーとラヴェル				
	6	世紀転換期の管弦楽曲（3）：ストラヴィンスキーあるいはディアギレフ				
	7	破壊と再生：シェーンベルクとその楽派				
	8	管弦楽曲の新古典主義（1）：ストラヴィンスキー再び				
	9	管弦楽曲の新古典主義（2）：ヒンデミットとオネゲル				
	10	管弦楽曲の新古典主義（3）：東欧の革新：バルトークとコダーイ				
	11	ソヴィエト連邦の管弦楽曲：ショスタコーヴィチとプロコフィエフ				
	12	20世紀後半の管弦楽曲（1）：ポスト・セリエリスムと新ロマン主義				
	13	20世紀後半の管弦楽曲（2）：アメリカの風？				
14	20世紀後半の管弦楽曲（3）：日本の前衛作曲家像					
15	定期試験					

準備学習の内容	音楽史関係の書籍を、少なくとも一冊は読み込んでおくこと					
履修上の注意						
評価方法	試 験	課題(レポート含)	発 表	平常点	その他	合 計
	○			○		100%
	補 足					
教材等	適宜、プリントを配付する					